

14年の歳月を経て完成

県道葛輪瀬戸線（本浦工区）
開通式



↑開通した葛輪瀬戸線（本浦工区）



↑テープカットを行う関係者



↑通り初めを行う関係者や一般車両

1月15日、県道葛輪瀬戸線（本浦工区）の開通式が現地で行われました。

葛輪瀬戸線の本浦工区は、これまで本浦集落内を通過する唯一の路線でありながら、道幅が狭くカーブの多い道で、農水産物輸送の大型車両のすれ違いに支障を来すだけでなく、歩行者の通行も危険な状況となっていました。

これらの問題を解決するため、この区間のバイパス整備の要望を出していたところ、平成16年度に事業が採択され、測量設計などが始まりました。

このバイパス開通によって、道路延長は約500㍔短縮されるところにも、設計速度は時速30㍔から50㍔になったほか、幅員は車道部分が2車線の6㍔、歩道部分が2.5㍔になるなど、大幅な改善が図られました。

14年の歳月と、総事業費約14億円を投じて迎えたこの日の開通式には、鹿児島県北薩地域振興局の中堂蘭哲郎局長や川添町長をはじめ、町議会、工事に携わった施工業者、地域の関係者らが出席しました。神事とテープカットを行った後、パトカーを先頭に通り初めを行い、全員で開通を祝いました。